

令和7年度第7回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：若年女性が住みたいまちとは～関西在住の女子大生からみた津山暮らし～
- 2 日時：令和8年1月30日（金） 14:30～15:30
- 3 場所：城西浪漫館（津山市田町122）
- 4 参加者：関西に進学した女子学生Uターン促進事業
Uターン促進プロジェクトチーム員 5名

5 知事挨拶

岡山県北をどう盛り上げるかという活動に関わっていただき感謝するとともに、皆さんが活動を通じて感じたことについて、お話を伺えることを楽しみにしている。

6 発言内容等

【プロジェクト参加理由】

- ・自分が岡山県出身で縁を感じた。また、地域の活性化をどう観光を通じてできるかというところに興味を持っており、地元である岡山県での活動が自分のやりたいこととマッチしていると思った。
- ・新しい魅力を通じて地域に人を呼び込むという取組に魅力を感じた。自分が住む京都では、オーバーツーリズムが問題になっており、これは個人の力では解決できない部分もあるが、魅力発信であれば自分たちの取組で貢献できると感じた。
- ・津山圏域が自分の地元と環境が似ており、興味を持った。
- ・バスツアー自体に興味があり、企画からアテンド、紹介まで自分たちで行えること、行政の方と一緒に活動できる機会に魅力を感じた。
- ・全国的に人口減少が課題となっている中で、バスツアーを通して地域の課題解決に貢献できる点に興味を持った。

【プロジェクトチームで企画したバスツアーについて】

- ・このツアーは、将来的な移住も視野に入れてもらうという面もあるので、観光スポットだけではなく、生活に直結する、スーパーなどがある地域の中心部を行程に入れた。また、出産、病院などの医療面、学校などの教育面といった、ライフステージに関する具体的な情報をぜひ聞いてほしいと思い、地域の女性との交流会を設けた。
- ・「食べ物」や「おしゃべりできる場所」を重視した。津山には、カフェや夜に楽しめる店が思ったより多く、そこにも魅力を感じてもらえると思い、地域の食やお店を紹介し、地域の良さを知ってもらいたいと考えている。

【津山地域を見て感じた地域の良さ、若い女性が住む上でのネック】

- ・津山から大阪駅まで直通バスがあり、意外と関西に近く、週一で行っているとの声も聞いた。アクセスの良さはメリットとしてアピールできる。
- ・生活するうえで不可欠なのが車ということが分かり、若い女性にとっては、購入費用や維持費が大きな負担となる。自分も運転免許を持っているが、事故も怖いし、関西では電車やバスが発達しているため運転もしていないため、車がないと生活しにくいのはハードルになる。

- ・市内中心部の商業施設には、コンパクトな中に必要なものがギュッと詰まっているため、暮らしやすく、そこに行けば全て完結する。そうした便利な施設が身近にありつつ、郊外が近いので、休日は自然豊かなところでアクティビティを楽しんだりなど、オンオフが切り替えやすい場所だと感じた。ただ、津山市内には遊ぶための商業施設が少ないと感じた。
- ・ハードルは、正社員としての就職先が少なく、選択肢が限られる点。合計特殊出生率は、女性の正社員雇用率と正の相関関係があるとも言われていることから、女性がUターンして子育てしやすい環境となるには、女性がUターンしたときに、正社員として雇用されやすい地域であるということが重要だと考えている。

【今後のアイデア】

- ・Uターンを増やすためには、高校生までに、総合的な探究の時間等を利用して、自分の住んでいる地域について深く学び、地元で暮らすメリットや魅力を再発見する教育が必要だと思う。結婚や子育て、老後を考えて際に「やっぱり岡山がいい」と感じることに繋がると思う。
- ・地元の方も皆さん住みやすいと言い、自分自身も、魅力が多くある地域だと感じた。ただ、私をはじめ、津山自体を知らない人が多く、それがもったいないと感じている。今回のような大学との連携を増やし、情報発信していくことが必要だと感じた。
- ・大学卒業後のUターン就職を考える際、地元企業の就職説明会は、地元で開催されるため、県外の学生には情報が届きにくい。関西圏でも説明会が開催されれば、地元就職を具体的に検討しやすくなると思う。
- ・インスタで岡山のPRをする人の絶対数が、もう少し増えてもいいと思う。

7 知事まとめ

全国様々な地域がある中、津山地域には津山地域独特の良さがあり、それを気に入ってもらえる人をどう見つけてくるかが大切になるが、このバスツアーは、そのきっかけ作りになるものだと思う。

我々と学生さんとで、ずいぶん見え方が違ったりする。車についても、我々は運転できることを前提に考えがちだが、なるほどと感じた。

地域のPRをしっかりとすることも、コストを考えながら、しっかりと取り組んでいきたい。